

令和3年度 愛知県立愛西工科高等学校 学校評価

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できた C:継続的な取組が必要である D:取り組むことができなかった

本年度の重点目標	すべての教育活動において、教職員と生徒がその目標と内容や計画を共有し見通しを立てて取り組む。また、振り返りを行うことで自己の成長を確認させるとともに指導の改善につなげる。						
	分掌等	重点目標	具体的方策	留意事項	評価方法	具体的方策の評価	結果と課題
総務課	① 主担当者が主体となり総務課内で連携し、事業計画や運営においてより親切・丁寧に取り組む。	・ 総務課での役割分担を明確にし連携を図り、事業の計画や運営の在り方を検証し、学校外からの視線に立って企画・運営をする。	・ 慣例にとらわれることなく、常に新しい発想や視点に留意する。	・ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点と学校外からの視線に立ち、各行事の企画や運営を検証するとともに担当者が主体となり課員と連携と協力しながら親切・丁寧に取り組んでいるか。	B	・ 役割分担や連携を図り事業の計画や在り方を検証した。学校外からの視線に立って企画及び運営は、継続的に取り組むたい。	B
	② 始業式、終業式、表彰などの式典や行事などで課題解決能力、人間性、コミュニケーション能力向上の一助となる取り組みを行う。	・ 講話や掲示物によって生徒へ啓発を行う。	・ 講話内容や掲示物について考慮する。	・ 講話内容や掲示物で生徒への啓発が行われているか。	B	・ 始業式や終業式及び防災委員会での生徒への講話により、人間性を高める啓発はできた。今後も継続して取り組むたい。	B
教務課	① 学習評価の充実 (令和4年度の学習指導要領の実施に向けて学習評価の検討、それに伴う教務内規の見直し)	・ 観点別評価の「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の評価規準や評価方法について周知し、検討を行う。	・ 評価基準や評価方法について周知、検討を行い、令和4年度からの実施に向けて教務内規(学習評価)について検討、見直しを行う。	・ 観点別評価の「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の評価基準や評価方法について周知・検討を行い、実施に向けた準備ができてきているか。	B	・ 学習評価は、年間計画を立て進めることができた。観点別の評価規準や評価方法は、教科主任連絡会で周知及び検討ができた。今後も評価の総括方法及び内規の改定について検討を進める。	B
	② 主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。	・ 主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の図る中で、ICTの活用促進とBYODの活用について検討する。	・ ICTを活用しやすい環境の整備とBYODの活用について検討する。	・ 主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る中で、ICTの活用促進とBYODの活用について検討及び実施することができたか。	A	・ 主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る一つの方法として、配備されたタブレット(80台)の利用環境を整備し、授業での活用を始めることができた。	A
	③ 入試への対応(継続)	・ 資料を整理して進めていく中で、引き続き誤りのない効率的な入試処理になるようにする。	・ 資料整理に努め、現在と今後に向けた誤りのない効率的な入学者選抜業務に繋げる。	・ 資料を整理して進めていく中で、引き続き正確で効率的な入試処理となっているか。	B	・ 入学者選抜資料を整理し、誤りがなく効率的な入学者選抜業務となる準備ができた。	B

令和3年度 愛知県立愛西工科高等学校 学校評価

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できた C:継続的な取組が必要である D:取り組むことができなかった

本年度の重点目標							
すべての教育活動において、教職員と生徒がその目標と内容や計画を共有し見通しを立てて取り組む。また、振り返りを行うことで自己の成長を確認させるとともに指導の改善につなげる。							
分掌等	重点目標	具体的方策	留意事項	評価方法	評価		
					具体的方策の評価	結果と課題	重点目標評価
生徒指導課	① 時間を守り、身だしなみを整えさせる指導	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻をしない指導 身だしなみ指導の合格期限の厳守 職員間の情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導課による登校指導を継続して行い、遅刻する生徒には指導を行う。 身だしなみ指導は、教育活動全般において、全職員で指導をすることにより、期日までに身だしなみを整えるような雰囲気を醸成する。 生活面、学習面での生徒の変化に注意し、生徒情報を共有することで、適切な改善点の指導や助言する。また指導方針、指導手順などは、全職員の共通理解のもとで指導にあたり、保護者の理解と協力を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻が多い生徒に対して遅刻防止指導を行うことで規則正しい生活を送れるようになっているか。 連続して身だしなみ指導時に不合格となっていないか。 指導連絡票を用いて教務課・学科・学年主任・担任と情報を共有し、一貫した指導ができているか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が定刻に登校することができた。また、継続した指導により、遅刻する生徒を減少させることができた。 多くの生徒が期限を意識して整えることができた。また、生徒の身だしなみに対する意識が向上した。 指導連絡票を有効的に活用し担任や学年及び学科と連携しながら指導することができた。 	B
	② いじめの早期発見、適切な対処	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活等のアンケートの実施方法や、その後の対処の在り方について検証し、いじめの早期発見、適切な対応につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が記入しやすいアンケートの作成し、実施をする。結果をもとに早期に組織的な対応をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活アンケートを実施し、アンケートの中からいじめに該当する内容を確認し、すぐに対処できたか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> アンケートを実施した結果、いじめに該当する事案はなかった。 	A
	③ モラル・マナーの意識向上	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導をはじめ、モラル・マナーの意識向上 	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故や問題行動を未然に防ぐ指導や、モラル・マナーに関する意識を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 登校時の校門指導だけではなく、最寄り駅での指導をも行うとともに学校生活のあらゆる場面でモラル・マナー指導を実施できたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 継続した登校指導により、交通マナーを向上させることができた。また、下校時も指導することでより高いマナーやモラルの向上を図ることができた。 	B
生徒会課	① 部活動の更なる活性化（継続）	<ul style="list-style-type: none"> 中学生対象部活動見学会を開催し、中学生やその保護者に本校の部活動を紹介する機会を作る。 より手厚い指導、より生徒が活躍できる機会ができるよう、現行の部活動について改めて検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の中学校と連携を図り、多くの中学生が部活動見学会に参加できるように計画を立てる。 部活動の検討の結果が、就職先を決定する際に不利に働かないように留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生対象部活動見学会で中学生や保護者が十分に見学ができたか、アンケートを行い確認する。 部顧問会議を開き、現行の部活動について検討の機会を設けることができたか。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染状況を考慮し、中学生が安心して部活動見学ができるよう継続的な検討が必要である。 生徒がより活躍できる部活動のあり方を継続的に検討していく必要がある。 	C
	② 生徒が主体となった学校行事の運営	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部会を定例で開催することで生徒会課職員と生徒会役員とのコミュニケーションを図り、生徒会役員が積極的に運営・準備を行える環境づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体となり、計画的に企画運営ができるように留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員が学校行事等で中心となって運営することができたか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を講じ、球技大会や体育祭及び文化祭など生徒会役員が中心となり運営することができた。 	A

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できた C:継続的な取組が必要である D:取り組むことができなかった

本年度の重点目標		すべての教育活動において、教職員と生徒がその目標と内容や計画を共有し見通しを立てて取り組む。また、振り返りを行うことで自己の成長を確認させるとともに指導の改善につなげる。						
分掌等	重点目標	具体的方策	留意事項	評価方法	評価			
					具体的方策の評価	結果と課題	重点目標評価	
保健厚生課	① 受診することが望まれるな生徒の受診率を向上させる。	・健康診断の結果をもとに対象の生徒に対して受診勧告書により受診を促し、事後の報告を含めた指導を行う。	・感染症などの状況により、受診を勧めることが困難な場合は、状況に応じた対応を行う。	・生徒が受診勧告に応じて受診し、事後報告ができたか。	B	・各種検診の結果から受診した生徒が増加した。特に眼科は、その傾向が顕著であった。	B	
	② 教育相談及び、特別支援教育の充実を図る。	・SCやSSWとの連携を図るとともに、迅速に対応できるよう校内組織をより機能的なものにする。	・迅速に対応できるよう、日頃から情報収集を十分に行う。	・個別の状況に応じて臨機応変に対応できたか。	B	・継続的な支援計画の作成及び支援が必要な生徒への対応など、前年度と比較し大きく推進した。	B	
	③ 清掃点検を計画的に行う。	・前年度に計画を立案し、新年度に反映させる。	・定期的に行うことはもちろんのこと、不定期にも行い、校内が常に清潔な状態を保てるようにする。	・学期に1回以上清掃点検を行えたか。	B	・清掃点検の効果が確認され、校内美化充実への取組ができた。	B	
	④ 安全点検を機能させる。	・安全点検によって判明した施設・設備の修繕が速やかに行われるよう、事務と連携し対応する。	・生徒の安全に関わる箇所の修繕については特に迅速な対応ができるよう、事務に依頼する。	・安全点検の確実な実施と結果を集約し、対応できたか。	B	・計画的に安全点検を実施し、改善できた施設及び設備があった。	B	
進路指導課	① 進路情報の効果的な伝達	・新たな情報伝達ツールを用い、より確実に情報を伝える。	・新型コロナウイルス感染拡大状況を見ながら、状況に応じた対応をする。	・新たなツールで、広く情報発信できたか。	A	・『令和3年度企業採用情報』『求人一覧表』を、随時開示し保護者と情報を共有することができた。	A	
	② キャリア教育の充実	・キャリアパスポートを効果的に活用する。	・一方通行にならないように、生徒と教員相互でやり取りをしながら進める。	・キャリアパスポートを定期的に活用し、キャリア教育が充実したか。	B	・キャリアパスポートを進路講演会とリンクさせ、活用効果を高めた。今後はさらに、各学期の目標設定と達成度も振り返られるようにしていきたい。	B	
	③ 進路相談の充実	・進路相談室を生徒が相談しやすい部屋にする。	・部屋の雰囲気やレイアウト、資料の閲覧方法などハード・ソフト両面から考える。	・進路指導室の情報が整理され、生徒の利用率が向上したか。	B	・外部の情報をタイムリーに掲示することで情報を発信できた。	B	

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できた C:継続的な取組が必要である D:取り組むことができなかった

分掌等	重点目標	具体的方策	留意事項	評価方法	評価		
					具体的方策の評価	結果と課題	重点目標評価
本年度の重点目標	すべての教育活動において、教職員と生徒がその目標と内容や計画を共有し見通しを立てて取り組む。また、振り返りを行うことで自己の成長を確認させるとともに指導の改善につなげる。						
工務課	① 工業4学科との連携と協力	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が参加する各種競技会、学校主催の行事等について、工業4学科の協力を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種競技会や講座、学校行事等に生徒が積極的に参加し活躍できるように工業4学科で連携して協力しあう。行事については担当が特定の学科に偏らないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 4学科で行事等の担当が偏っていないか確認する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各種競技会及び行事は、4学科で協力することができた。 	B
	② 中学生及び地域への積極的なアピール	<ul style="list-style-type: none"> HPを充実させる。地域でのものづくり講座、地域のフェスティバルなどに積極的に参加をする。愛西市役所などとも協力し中学校に向けて出前授業などアピールをしていく。また中学生対象のものづくり教室を学校で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> HPに生徒の活躍したことなどを掲載していく。地域のフェスティバルなど参加するものについて過度の負担とならないように工業4科との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> HP、愛西工科高ニュースなどで生徒の活躍を発信できているか。地域のフェスティバルに参加できているか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域のフェスティバルは中止が多かった。合同進学説明会や愛西市との官学連携事業は生徒会及び4学科と協力し進めることができた。学校HPの更新は、継続的に取り組みたい。 	B
	③ 資格の合格率向上	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得意識の向上に向けて、生徒の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科、学年と協力して資格の合格率を向上させる。また、資格についても生徒が受験するにふさわしいかどうか精査する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得は、生徒が受験するのにふさわしいか4学科で協議されているか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> リスニング英語検定は、1年生全員受験とし合格率50%であった。合格率向上に継続的に取り組みたい。 	B
ロボット工学科 電子機械科	① 魅力あるものづくり教育の確立	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心が持てる実習内容や方法の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 実習課題の活動工程・段取りを見直すことにより、安全でスムーズ、正確な活動・作品ができ、達成感のある実習になるよう工夫する。新たな実習テーマを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習課題の活動において安全で、正確な操作法を学ぶことにより、より良い作品ができることで興味・関心が持てるような学習内容が確立できたか。新たな実習テーマを考えることができたか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 手際よく正確に作品ができるように操作手順を考えさせ、多くの生徒が意欲的に活動ができ、興味・関心を持つことができた。ロボットに関する新たな実習テーマを2つ作成することができた。 	A
	② 社会の発展に寄与できる人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 安全やマナーを考慮した行動 	<ul style="list-style-type: none"> 安全、けじめ、期限遵守を重点に指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実技を伴う科目において、安全・けじめ・期限を守ることができたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 実習服の着用状況は良好であった。提出物の期限は、個々の能力に応じ授業後の指導やプリント等の説明にて完了できるよう指導を行った。 	B
	③ 資格取得への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> 自己啓発として資格取得に意欲的に参加させ、合格を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 技能士を中心に資格取得の指導と環境整備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの資格に挑戦し、取得できたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大のなか、受験可能な資格に多く挑戦し、合格することができた。 	B

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できた C:継続的な取組が必要である D:取り組むことができなかった

分掌等	重点目標	具体的方策	留意事項	評価方法	評価		
					具体的方策の評価	結果と課題	重点目標評価
本年度の重点目標	すべての教育活動において、教職員と生徒がその目標と内容や計画を共有し見通しを立てて取り組む。また、振り返りを行うことで自己の成長を確認させるとともに指導の改善につなげる。						
機械科	① 基本的な生活習慣の確立	・ 社会のルールに基づいた生徒指導を実践し、人間的な成長を促す。	・ 遅刻・欠席・早退数の減少やリーダーシップ、協調性、上下関係などを意識し、学校生活をさせる。	・ 出席日数等のカウントを確認しながら、生徒とのコミュニケーションがとれているか。	B	・ 新型コロナウイルス感染拡大防止の中、欠席等の生徒に対して適切に指導できた。補習等の時間も必要に応じて設定し生徒の学習機会を確保することができた。	B
	② 基礎学力の向上	・ 社会のルールに基づいた生徒指導を実践し、人間的な成長を促す。	・ プリント、ICT機器等を積極的に活用する。	・ 新しい機器などを使用し、授業を展開できたか。	B	・ 学科での取り組みや課題研究で積極的にタブレット端末を使用させICT機器を活用した。ロボドリル(マシンングセンタ)の使用法の基礎的知識を実習で身に付けさせている	B
	③ スペシャリストの育成	・ 資格に対する意欲を喚起させ、自分を高める努力が継続的にできるようにさせる。	・ 資格の指導体制を整備し、受験者数および合格数を増やす。	・ 各種資格の受験者数を確認する。	B	・ 新型コロナウイルス感染拡大防止の中でも適切に資格の指導体制を整備することができた。計算技術検定2級等上位資格の合格者が増加した。	B
電子工学科	① 産業界で求められる人材の育成	・ 規則正しい生活習慣を日常的に指導する。 ・ 身だしなみや対応力を日常的に指導する。	・ 遅刻・欠席は社会にでたら許されないということを意識付ける。 ・ 髪型や服装はもちろん、様々な場面での対応力を日々の教育活動の中で意識させる。	・ 日常的に遅刻・欠席に対する意識づけおよび指導を行うことができたか。 ・ 身だしなみや礼節について意識づけおよび指導を行うことができたか。	B B	・ おおむね規則正しい生活を送ることができた。 ・ 身だしなみは、良好であった。	B
	② 資格取得の推進	・ 資格取得の意識高揚と取得数が向上するように指導する。	・ 学科全体で資格取得に向けた環境作りに努め、日頃から意識高揚を図る。	・ 資格試験・検定にチャレンジして合格できたか。	B	・ 第二種電気工事士21名合格（合格率55%）し、前年度より18%向上した。	B
	③ 電子工学科の魅力の発信	・ 地域との交流や学科のPRに努める。	・ 地域におけるものづくり教室などの各種講座を開催する。	・ 電子工学科を対外的にアピールできたか。	B	・ 体験入学やオープンキャンパス及び地域連携講座を通して電子工学科の魅力を発信することができた。	B

令和3年度 愛知県立愛西工科高等学校 学校評価

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できた C:継続的な取組が必要である D:取り組むことができなかった

本年度の 重点目標	すべての教育活動において、教職員と生徒がその目標と内容や計画を共有し見通しを立てて取り組む。また、振り返りを行うことで自己の成長を確認させるとともに指導の改善につなげる。						
	分掌等	重点目標	具体的方策	留意事項	評価方法	具体的 方策の 評価	結果と課題
建築 デザイン科 建築科	① 社会で役立つ人材の育成	・ 社会のルールに基づいた生活指導を 実践し、人間的な成長を促す。	・ 工科高校生として持つべき礼節、期 日遵守、ケジメを日頃から意識する ように指導する。	・ 工科高校生として持つべき礼節、期 日厳守、ケジメを日頃から意識する よう指導したか。	B	・ 多くの生徒が工科高校生として持つ べき礼節、期日遵守、節度ある行動 を日頃から意識して行動するよう になった。	B
	② 魅力ある授業や実習を計画し実施す る。	・ 魅力ある授業や実習を計画し実施す る。 ・ 資格取得に向けた指導を充実させ る。 ・ 各種競技会への参加する。 ・ 適切な進路指導を行う。	・ 興味関心を引き出す授業、実習を模 索し実施する。 ・ 実技講習会、現場見学会など企業と 連携した取組を実施する。 ・ 技能検定（建築大工、鉄筋組立）、 2級建築施工管理技術検定、CAD検 定、製図技能検定等の資格を取得さ せ、自信をもたせる。 ・ ものづくり競技会、建築設計競技に 意欲的に取組み、建築に対して意 欲・関心を高める。 ・ 関係分掌、担任、保護者と連携し、 計画的に適切な進路指導を行う。 ・ インターンシップ、企業見学などを 通して望ましい職業観の育成を図 る。	・ 興味関心を引き出す授業、実習を模 索し実施できたか。 ・ 実技講習会、現場見学会など企業と 連携した取組を実施したか。 ・ 技能検定（建築大工、鉄筋組立）、2 級建築施工管理技術検定、建築CAD検 定、建築製図技能検定等の資格を取 得することができたか。 ・ ものづくり競技大会、建築設計競技 に意欲的に取り組むことができ たか。 ・ 関係分掌、担任、保護者と連携し、 計画的に適切な進路指導を行っ たか。 ・ インターンシップ、企業見学などを 通して職業間の育成を図ったか。	A A A	・ 実物や模型、ICT機器を活用しながら 理解の深まる授業展開を模索し、実 施した。 ・ 産業界や官公庁の支援と協力を受け て、実践的及び体験的な学習活動 を実施することができた。 ・ 技能検定（建築大工、鉄筋組立）、2 級建築施工管理技術検定、CAD検定、 製図技能検定等の資格取得に取組む 生徒が増加した。授業や放課後等の 授業時間外で資格取得に向けた取組 みを実施し、着実に努力を重ねた生 徒は合格することができた。 ・ ものづくり競技会、建築設計競技に 意欲的な取組みを通して建築に対 しての学びを深め、成果や評価を得 たことで、意欲・関心を高めること ができた。 ・ 実践的・体験的な学習活動を各学年 の学習内容と連携させて実施する ことにより、生徒の進路選択の一助 となった。 ・ 地域ものづくりスキルアップ講座 「クラフトマンⅢ」や実践的・体験 的な学習活動を通して、職業観の育 成を図ることができた。	A
	③ 建築デザイン科の魅力・特色の発信	・ 地域と交流、連携した取り組みを行 い、学科のPRに努める。 ・ 学科の魅力や特色をPRする。	・ 中学生体験入学、中学校説明会、も のづくり教室、地域との連携講座な どを通して学科の魅力を発信する。 ・ ホームページの更新を適宜行い、学 科の特色、魅力を発信する。	・ 中学生体験入学、中学校説明会、も のづくり教室、地域との連携講座な どを通して学科の魅力を発信した か。 ・ ホームページの更新を適宜行い、学 科の特色、魅力を発信したか。	C C	・ 12月～1月にものづくり教室の実施を 計画していたが、まん延防止等重点 措置が発出されたため、計画を中止 した。次年度、ものづくり教室等を 適宜実施して、学科の魅力を発信に 努めたい。 ・ 学科紹介のパワーポイント等をPR に活用した。次年度は、ホームペ ージの更新を適宜行いたい。	C

令和3年度 愛知県立愛西工科高等学校 学校評価

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できた C:継続的な取組が必要である D:取り組むことができなかった

分掌等	重点目標	具体的方策	留意事項	評価方法	評価		
					具体的方策の評価	結果と課題	重点目標評価
本年度の重点目標	すべての教育活動において、教職員と生徒がその目標と内容や計画を共有し見通しを立てて取り組む。また、振り返りを行うことで自己の成長を確認させるとともに指導の改善につなげる。						
1学年	① 基本的な生活習慣を確立する。	・ 規則正しい生活を確立し、欠席・遅刻・早退をなくすためにきめ細かな指導を行う。	・ 家庭との連絡を密にし、生徒に対して早めの対応を心掛け、指導を行う。	・ 多くの生徒が規則正しい生活習慣を確立し、意欲的に学校生活に取り組んでいるか。	B	・ 多くの生徒が規則正しい生活習慣が確立できているが、継続的な指導が必要である。	B
	② 時間・約束・ルールを守る規範意識を確立する。	・ 身だしなみを整えることや提出物の期限を順守するなどの規範意識を高める指導を行う。	・ 日頃の授業・学習態度に気を配り、教科担任や学科との連絡を密にし、連携した指導を行う。	・ 多くの生徒が身だしなみを整えることや提出物の期限が遵守できているか。	C	・ 多くの生徒が意識して取り組んでいるが、一部生徒で継続的な取組が必要である。	C
2学年	① 規律ある生活習慣の確立	・ 時間厳守 ・ 挨拶、返事の励行 ・ 学習習慣の確立	・ 遅刻・欠席がないよう指導し、5分前行動を意識させる。	・ 遅刻防止指導を行うことで規則正しい生活を送ることができているか。	B	・ 多くの生徒が意識して取り組むことができた。一部生徒は継続的な家庭との連携が必要である。	B
			・ 状況に応じた挨拶、また返事ができるように指導する。	・ 挨拶や返事が適切にできているか。	C	・ 多くの生徒が実施できた。一部生徒への継続的な取組が必要であり、新型コロナウイルス感染状況を考慮した指導が必要である。	
			・ 授業に集中させ、終礼学習等を通して学習習慣が身につくよう指導する。提出物の期限を守らせる。	・ 提出物の期限が守られているか。	B	・ 多くの生徒は、期限を守ることができた。一部生徒には継続的な指導が必要である。	
② 修学旅行の成功	・ 修学旅行を想定し、学校行事に取り組ませる。	・ HR、学年集会等を通して、集団としての帰属意識を持たせ、状況に合わせて自ら考え実践することができるよう指導する。	・ 学校行事で修学旅行を想定して、取り組ませているか。	B	・ 修学旅行に向けて、指導及び準備を行うことができたが、新型コロナウイルス感染拡大状況により令和4年度へ延期となった。	B	
③ 進路実現に向けての意識づけ	・ 言語活動の充実 ・ 進路シミュレーションの実施	・ 終礼学習、スピーチを実施する。	・ 終礼学習やスピーチを実施し、基礎学力が身についたか。	C	・ 次年度は、さらに時間を確保し終礼学習・スピーチの指導に取り組むたい。	B	
		・ 進学や就職に関する情報を迅速に提供し、進路について考えさせる。	・ キャリアパスポートを定期的に活用し、キャリア教育が充実したか。	B	・ 進路指導課、学科と連携を図り、生徒の希望や目標を明確にすることができた。一部生徒に対する目標へのサポートが継続して必要である。		

令和3年度 愛知県立愛西工科高等学校 学校評価

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できた C:継続的な取組が必要である D:取り組むことができなかった

本年度の重点目標	すべての教育活動において、教職員と生徒がその目標と内容や計画を共有し見通しを立てて取り組む。また、振り返りを行うことで自己の成長を確認させるとともに指導の改善につなげる。						
	分掌等	重点目標	具体的方策	留意事項	評価方法	評価	
具体的方策の評価						結果と課題	重点目標評価
3学年	① 学校生活の充実	<ul style="list-style-type: none"> 時間厳守 挨拶の励行 身だしなみ指導の徹底 学習習慣の確立 学校行事の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席・早退等がないように指導し、5分前行動を意識させる。 元気な声で挨拶ができるように指導する。 STおよび授業前の身だしなみ確認を徹底する。 授業に対する姿勢の向上および提出物の期限厳守の改善を図る。 球技大会、体育祭、佐秋祭、卒業式を充実した行事となるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校への登校、移動教室を含め、5分前行動ができているか。 状況に応じた挨拶を、しっかりと行うことができているか。 身だしなみを、平日頃から整えることができているか。 授業に意欲的に参加し、提出物の期限が守られているか。 積極的に行事に参加することができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> B B B C A 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が5分前行動を意識して行動できた。 多くの生徒が元気に挨拶をしていると感じられた。 多くの生徒が身だしなみを整えることができた。 課題の提出はできているが、提出期限を守るに関しては、継続した指導が必要である。 学校行事には、すべてのクラスが積極的に参加することができた。 	B
	② 修学旅行の成功	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行を想定し、学校行事に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> HR、学年集会等を通して、集団としての帰属意識を持たせ、状況に合わせて自ら考え実践することができるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間を守った集団行動が取れ、状況に合わせて動くことができているか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行が校外学習へ変更となったが、状況に応じて動くことができた。 	A
	③ 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 個々の進路希望に沿った的確な情報の提供 就職試験および入学試験 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導課、学科と連携して生徒自身が適切な進路選択ができるように指導する。 生徒および保護者と密に連携を図る。 進路指導課、学科、教科、担任で連携して指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの進路についてしっかりと考え、志望する進路先を選択することができたか。 試験に備え、余裕を持って行動することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> A B 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導課及び学科と連携を図り、生徒の希望に合った進路選択を実現させることができた。 多くの生徒が、進路選択の試験に備えた準備をすることができた。 	A
	④ 社会で必要とされる人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 将来の社会人としての在り方と生き方の指導 話す力、書く力の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活を通して、社会でのルール、マナーを教え適切なコミュニケーションの取り方を指導し、社会的自立を促す。 授業、終礼時のスピーチを通し指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会人として必要なコミュニケーション能力が身についているか。 就職試験や進学試験を意識し、取り組むことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> B B 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が社会人として必要なルールやマナーを意識し、学校生活を送ることができた。 新型コロナウイルス感染拡大により、コミュニケーション行動に制限がある中で、進路実現を意識し、表現する力や書く力を養うことができた。 	B

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できた C:継続的な取組が必要である D:取り組むことができなかった

本年度の重点目標	すべての教育活動において、教職員と生徒がその目標と内容や計画を共有し見通しを立てて取り組む。また、振り返りを行うことで自己の成長を確認させるとともに指導の改善につなげる。						
分掌等	重点目標	具体的方策	留意事項	評価方法	評価		
					具体的方策の評価	結果と課題	重点目標評価
安全衛生委員会	① 時間外勤務45時間以内を実現するための課題の整理と改善のための提案を行っていく。	・ 実現の可否に拘らず、自由な発想で提案を行っていく。	・ 単年での実現を目指すのではなく、数年内での実現を目指し、改善を図っていく。	・ 様々な意見を集約し、本校の課題を整理することができたか。	B	・ 問題解決に向けより具体的な立案をする土台づくりができた。	B
	② 「定時退校日」をより機能させることができる取り組みを行う。	・ 職員全体へ周知する機会の頻度を増やし、意識できる機会を多くする。	・ 朝の打ち合わせや、啓発をするための掲示など、当日の放送などによらず、日々のなかで周知するのに有効な機会や手段を行っていく。	・ 職員室内に定時退校日の告知を一週間前に表示し、職員に周知できたか。	B	・ 多くの職員が定時退校日を確認できるよう掲示し、定時退校を意識する環境整備をおこなった。	B